

第 9 2 回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成 2 7 年 1 0 月～ 1 2 月 期

平成27年10月～12月期は、原油等の原材料価格の低下、好調なインバウンド消費による収益増等が背景となり、企業業績は堅調に推移した。日銀短観（12月）は製造業が+12、非製造業が+25（なお「運輸・郵便」産業は大企業：+26、中堅企業：+17、中小企業：+9と総じて改善）となった。

このような状況において、トラック運送業界の10月～12月期は、軽油価格低下によるコスト低減効果があり、「一般貨物」及び「宅配以外の特積貨物」では企業業績に対して好影響を与えたが、「宅配貨物」では輸送数量減少による営業収益減少の影響で、営業利益率は悪化傾向がみられた。

景況感の判断指標は前回（▲19.4）から▲18.2となり、1.2ポイント改善した。なお、来期の見通しとなる景況感の判断指標は、中国等の新興国の経済の減退による我が国経済（株価下落等）への影響を背景に、今回より12.7ポイント悪化し、▲30.9の見通しとなっている。

平成 2 8 年 2 月 1 8 日

公益社団法人 全日本トラック協会

1. 今回（平成27年10月～12月期）の状況

① 概況

平成27年10月～12月期におけるトラック運送業界の景況感は、「好転」とした事業者は17.5%（前回17.4%）、「悪化」とした事業者は31.4%（前回33.5%）で、判断指標は▲18.2となり、前回（▲19.4）から1.2ポイントの改善となった。

② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が33.2%、「増加」とする事業者が21.3%で、判断指標は▲16.5となり、前回（▲13.6）から2.9ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が31.6%、「増加」とする事業者が25.5%で、判断指標は▲10.3となり、前回（▲11.0）から0.7ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が26.1%、「増加」とする事業者が32.2%で、判断指標は2.4となり、前回（▲1.0）から3.4ポイント改善した。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が32.3%、「増加」とする事業者が9.7%で、判断指標は▲29.0となり、前回（▲10.3）より18.7ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が38.7%、「増加」とする事業者が12.9%で、判断指標は▲29.0となり、前回（▲17.2）よりも11.8ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が32.2%、「増加」とする事業者が12.9%で、判断指標は▲19.4となり、前回（▲17.2）よりも2.2ポイント悪化した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が51.8%、「増加」とする事業者が23.2%で、判断指標は▲30.4となり、前回（▲22.6）から7.8ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が37.5%、「増加」とする事業者が28.6%で、判断指標は▲7.1となり、前回（▲8.1）から1.0ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が21.4%、「増加」とする事業者が39.3%で、判断指標は21.4となり、前回（16.1）から5.3ポイント改善した。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準は、一般貨物は0.4（前回5.0）と4.6ポイント悪化、宅配貨物は12.9（前回10.3）と2.6ポイント改善、宅配以外の特積貨物は21.4（前回27.4）から6.0ポイント悪化となっている。

⑤ 実働率等

実働率は▲13.4（前回▲14.5）と1.1ポイント改善、実車率は▲12.3（前回▲10.9）となり、1.4ポイント悪化となった。

雇用状況（労働力の過不足）は78.8（前回73.4）と5.4ポイント上昇し、不足感が強くなった。採用状況は▲4.0（前回▲5.1）で1.1ポイント増加し、所定外労働時間は▲11.4（前回▲10.6）と0.8ポイント減少している。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は▲3.8（前回▲2.0）で1.8ポイント減少となった。経常損益は8.3（前回5.4）となり、指標は2.9ポイント改善となった。

⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者は▲11.1（前回0.0）と11.1ポイント悪化、中規模事業者は▲13.9（前回▲13.2）となり、0.7ポイント悪化、小規模事業者は▲26.8（前回▲35.7）と8.9ポイント改善となっている。

一般貨物における主な取扱い品目別については、消費関連貨物は▲8.8（前回▲7.7）と1.1ポイント悪化、建設関連貨物は▲15.5（前回▲38.3）と22.8ポイント改善、機械関連貨物は▲14.9（前回2.7）と17.6ポイント悪化しており、その他貨物は▲26.3（前回▲29.6）と3.3ポイント改善している。

一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、中部、中国、九州において水準を上げている。

2. 今後（平成28年1月～3月期）の見通し

① 概況

平成28年1月～3月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲30.9で、今回から12.7ポイント下げる見込み。

② 一般貨物

一般貨物について、輸送数量、営業収入、営業利益ともに悪化の見込みである。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物について、輸送数量、営業収入、営業利益ともに悪化の見込みである。

宅配以外の特積貨物について、輸送数量はやや悪化、営業収入、営業利益ともに悪化の見込みである。

④ 運賃・料金水準

一般貨物はやや低下の見込み、宅配貨物、宅配以外の特積貨物は低下の見込みである。

⑤ 実働率等

実働率及び実車率はやや悪化の見込みである。雇用状況（労働力の過不足）は指標の水準を上げ、不足感が強まる見込みである。採用状況は、水準をやや下げ、減少の見込みである。所定外労働時間は水準をやや下げる見込みである。貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）は水準をやや下げ、経常損益は指標の水準を下げる見込みである。

⑥ 規模別および取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者、中規模事業者においては悪化、小規模事業者においてはやや悪化の見込みである。

一般貨物における主な取扱い品目別では、消費関連貨物、建設関連貨物、機械関連貨物、その他貨物ともに水準を下げる見込みである。一般貨物における地域別では、水準を上げると回答している地域はなく、すべて水準が低下する見込みである。

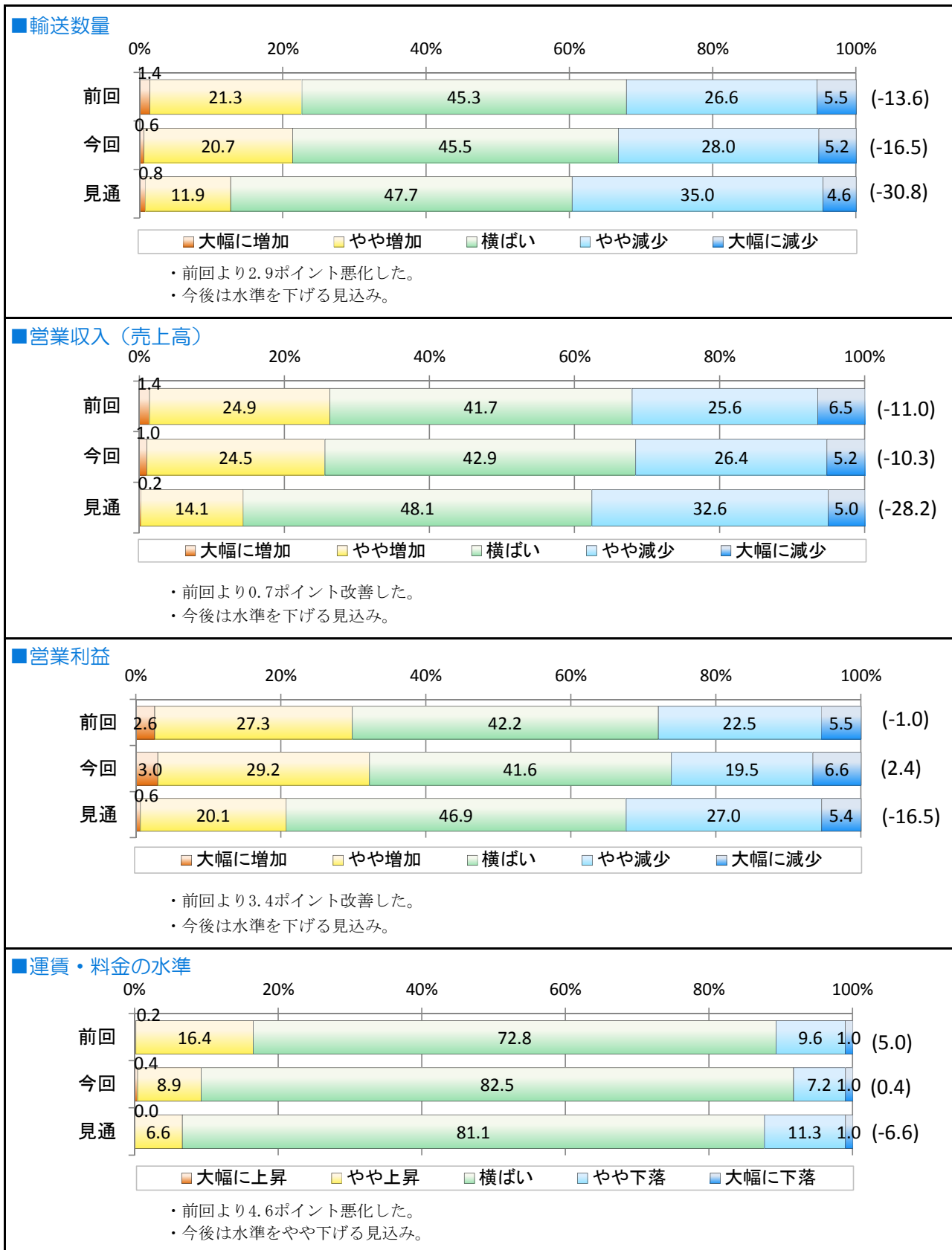
3. トピックス（人材不足、雇用状況について）

トラック運送業界では、必要なドライバーの員数を確保できないなど人材不足の状況にあることから、実態をより具体的に把握するため、人材不足について追加で質問した。

その結果、必要な人材が確保できていない割合は全体の67.6%であり、そのうち「繁忙期のみ、運行業務に支障が出ている」（59.7%）、「通年にわたり運行業務に支障が出ている」（40.3%）となっている。

また、人材不足による運行業務への影響としては、「仕事を断ることがある」（47.9%）が最も多く、「備車の依頼を増やすことがある」（39.2%）、「ドライバーの時間外労働時間を増加させることがある」（33.0%）となっている。

3. 一般貨物の概況



【調査の概要】

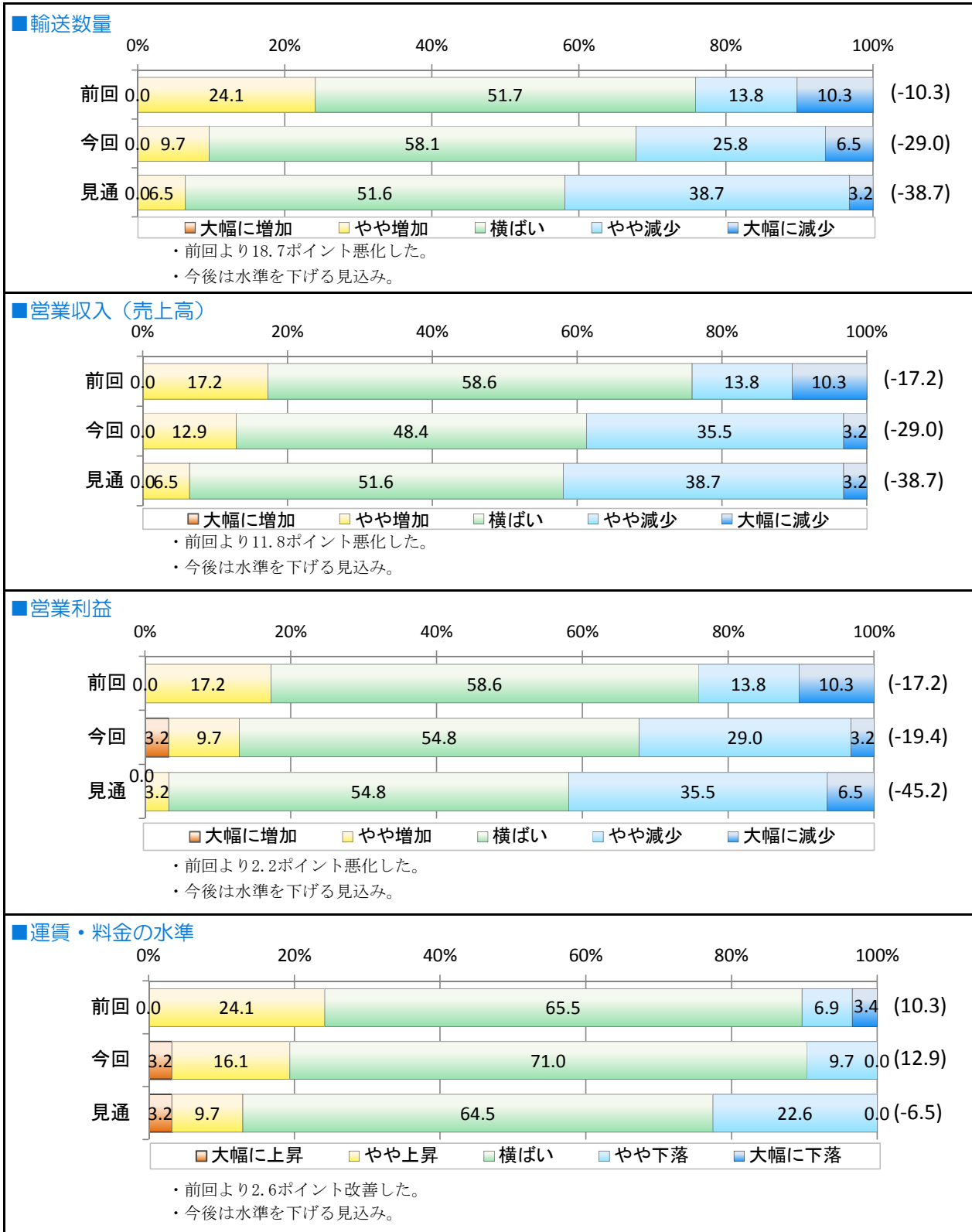
平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第92回調査は、平成28年1月7日に、モニターに対して調査開始。平成28年2月15日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
67	498	528

※一部回答事業者の重複あり

4. 特積貨物の概況

① 宅配貨物



(注1) 各グラフの上段は前回(H27.7月～9月期)の状況、中段は今回(H27.10月～12月期)の状況、下段は今後(H28.1月～3月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比を集計している。

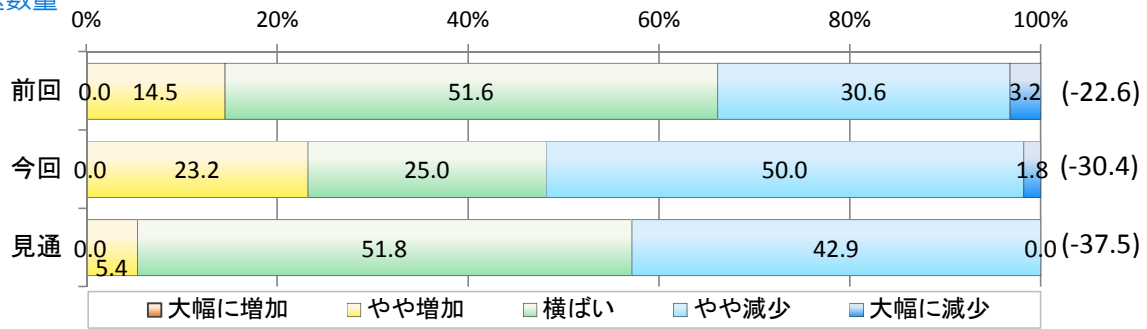
(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰-1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰～-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A(設問Aの回答者数) = a1+a2+a3+a4+a5(設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

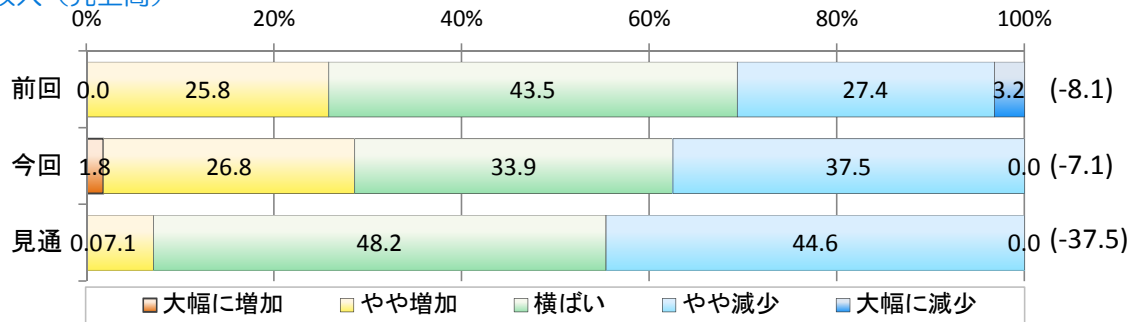
② 宅配以外の特積貨物

■ 輸送数量



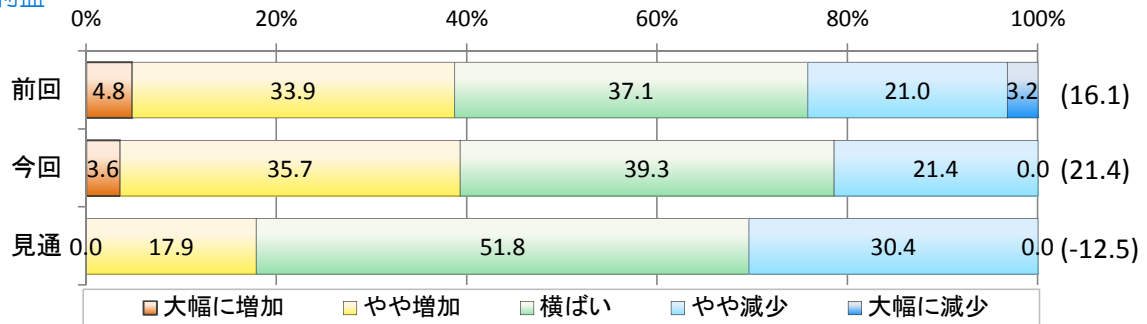
- ・前回より7.8ポイント悪化した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

■ 営業収入 (売上高)



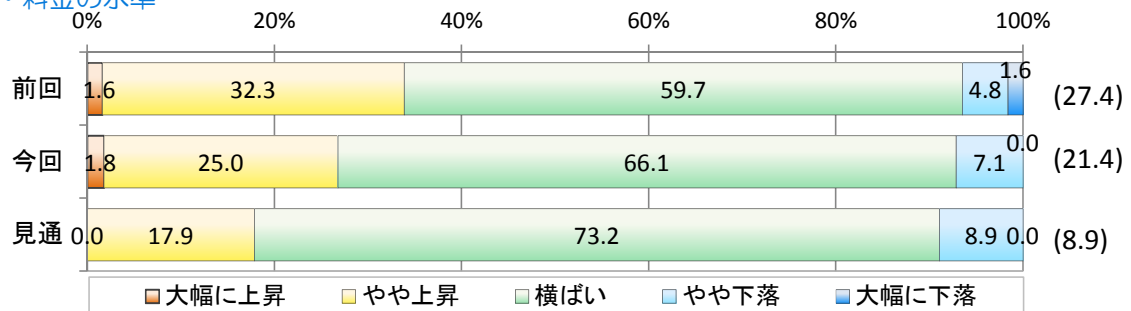
- ・前回より1.0ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

■ 営業利益



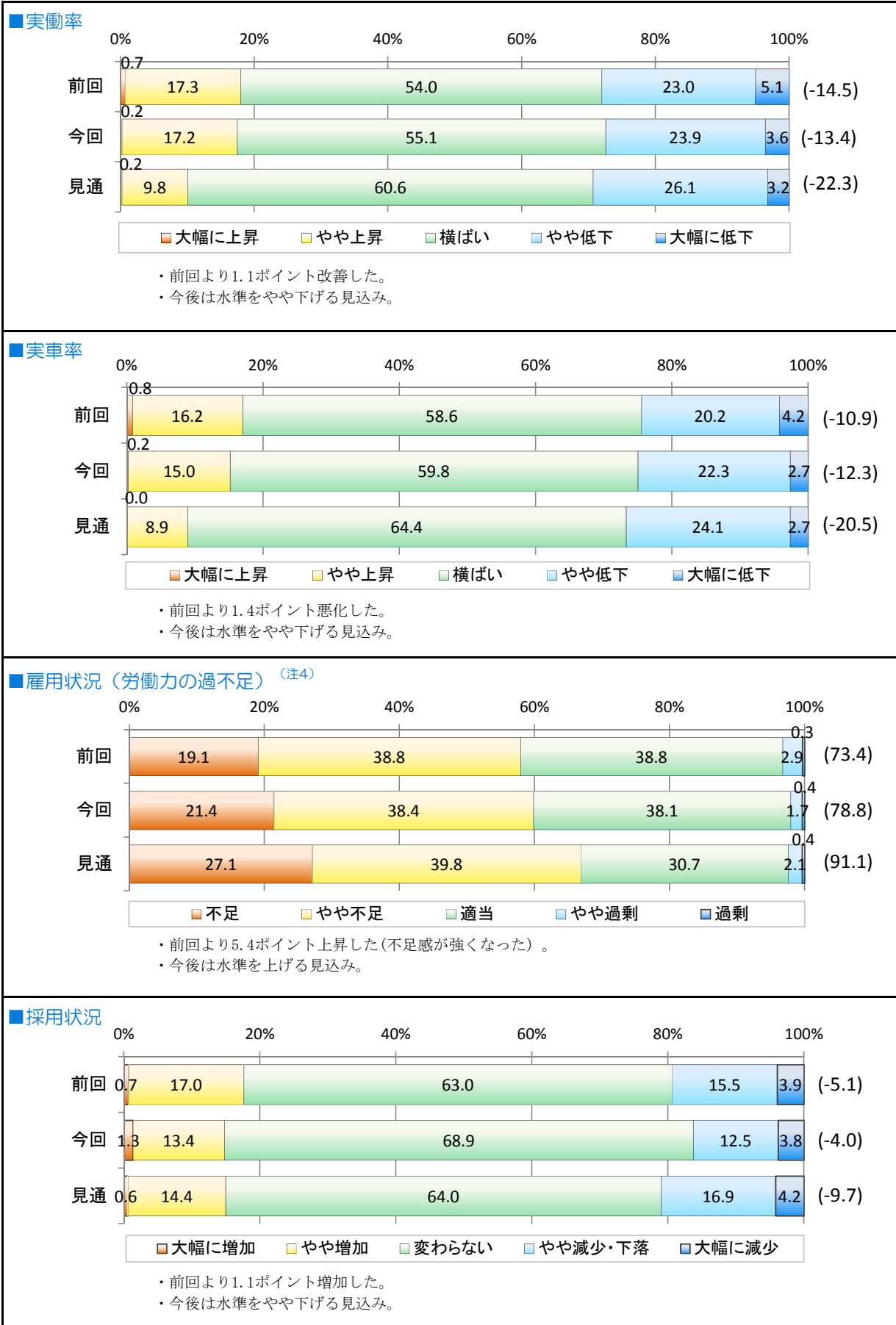
- ・前回より5.3ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

■ 運賃・料金の水準



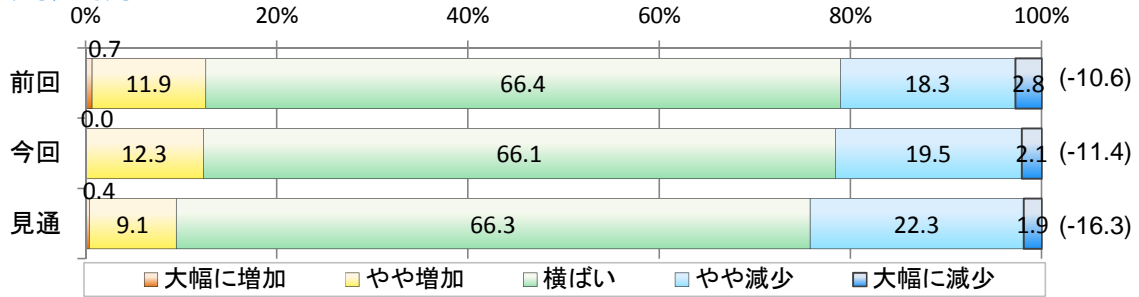
- ・前回より6.0ポイント悪化した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

5. 共通の概況



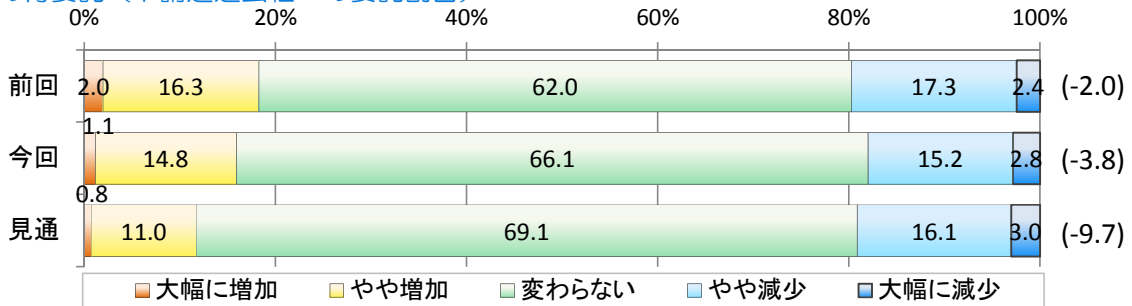
(注4)雇用状況については、上段は前回(H27.7月～9月期)の状況、中段は今回(H27.10月～12月期)の状況、下段は今後(H28.1月～3月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を質問している。

■ 所定外労働時間



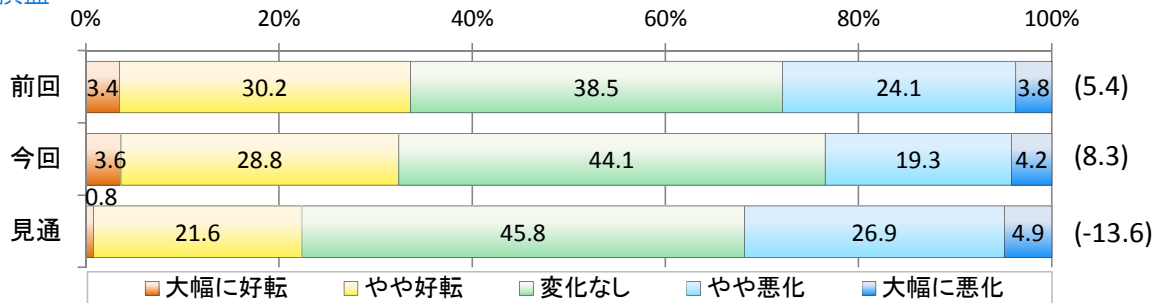
- ・ 前回より0.8ポイント減少した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

■ 貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



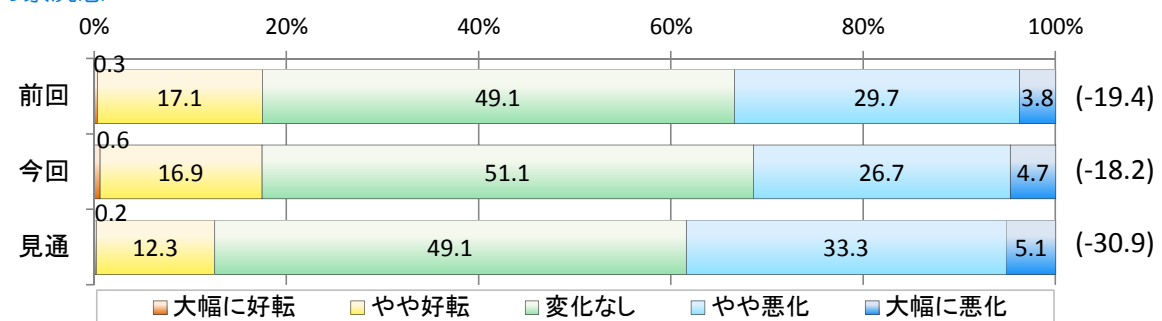
- ・ 前回より1.8ポイント減少した。
- ・ 今後は水準をやや下げる見込み。

■ 経常損益



- ・ 前回より2.9ポイント改善した。
- ・ 今後は水準を下げる見込み。

■ 業界の景況感



- ・ 前回より1.2ポイント改善した。
- ・ 今後は水準を下げる見込み。

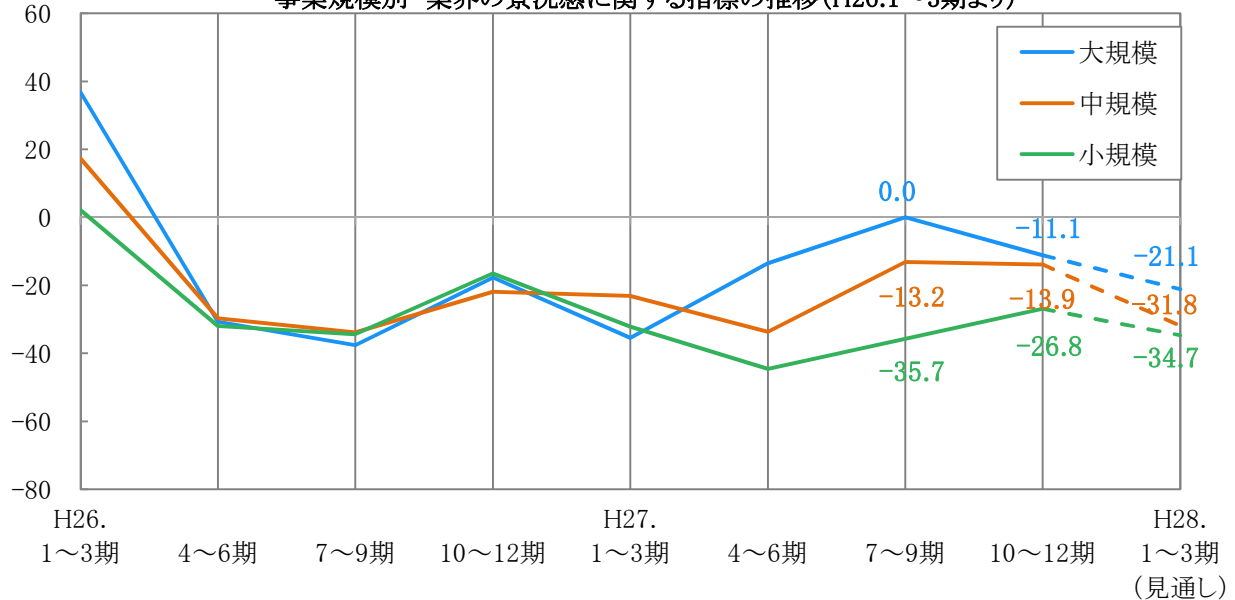
6. 事業者特性別の特徴

① 規模 (注5)

・事業規模別の景況感は前回と比べ、小規模事業者はやや改善しているが、中規模事業者は横ばい、大規模事業者はやや悪化している。

・今後は大規模事業者、中規模事業者においては悪化、小規模事業者においてはやや悪化の見込みである

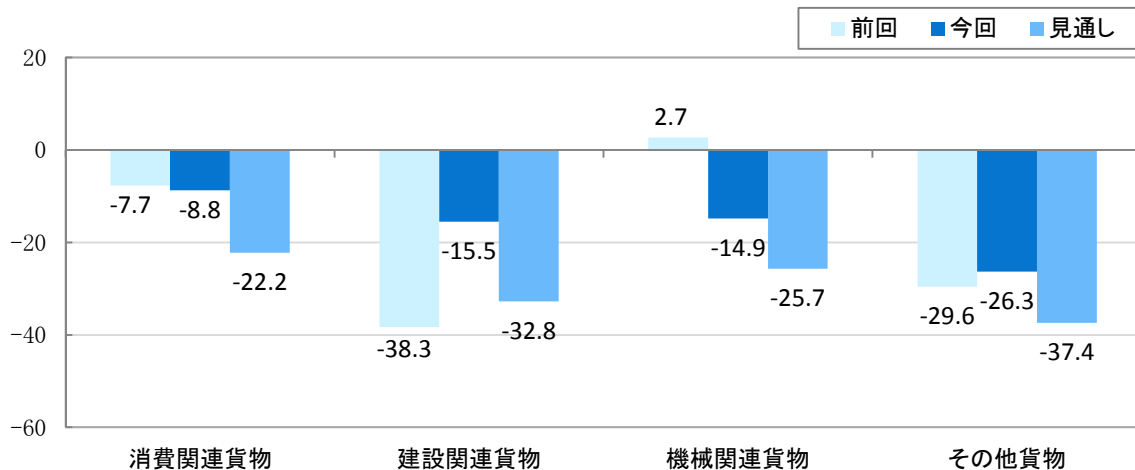
事業規模別 業界の景況感に関する指標の推移 (H26.1～3期より)



② 品目 (注6)

- ・「消費関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感はほぼ横ばいであり、今後は下がる見込みである。
- ・「建設関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を上げており、今後は下がる見込みである。
- ・「機械関連貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準を下げており、今後も下がる見込みである。
- ・「その他貨物」を扱う事業者では、前回と比べ景況感の水準をやや上げており、今後は下がる見込みである。

品目別 業界の景況感に関する指標 (一般貨物)



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上

中規模事業者：21両以上100両以下

小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

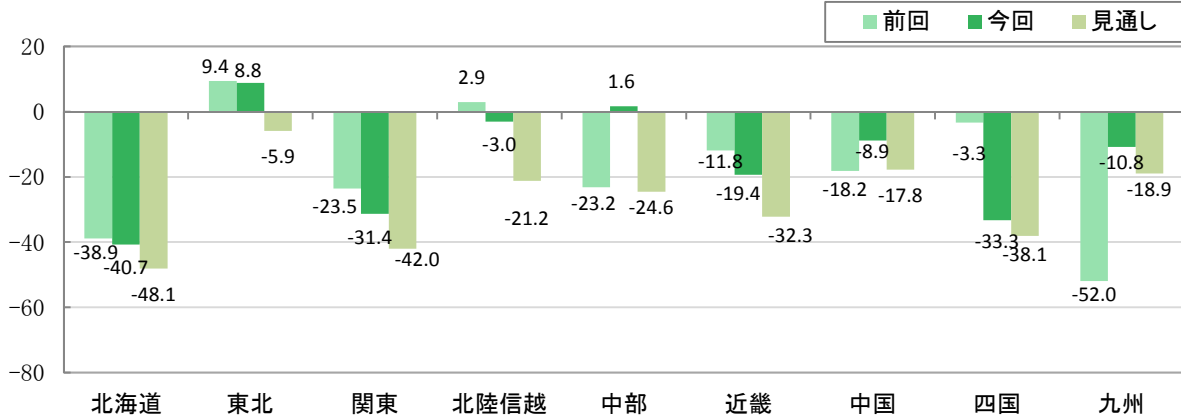
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

③ 地域 (注7)

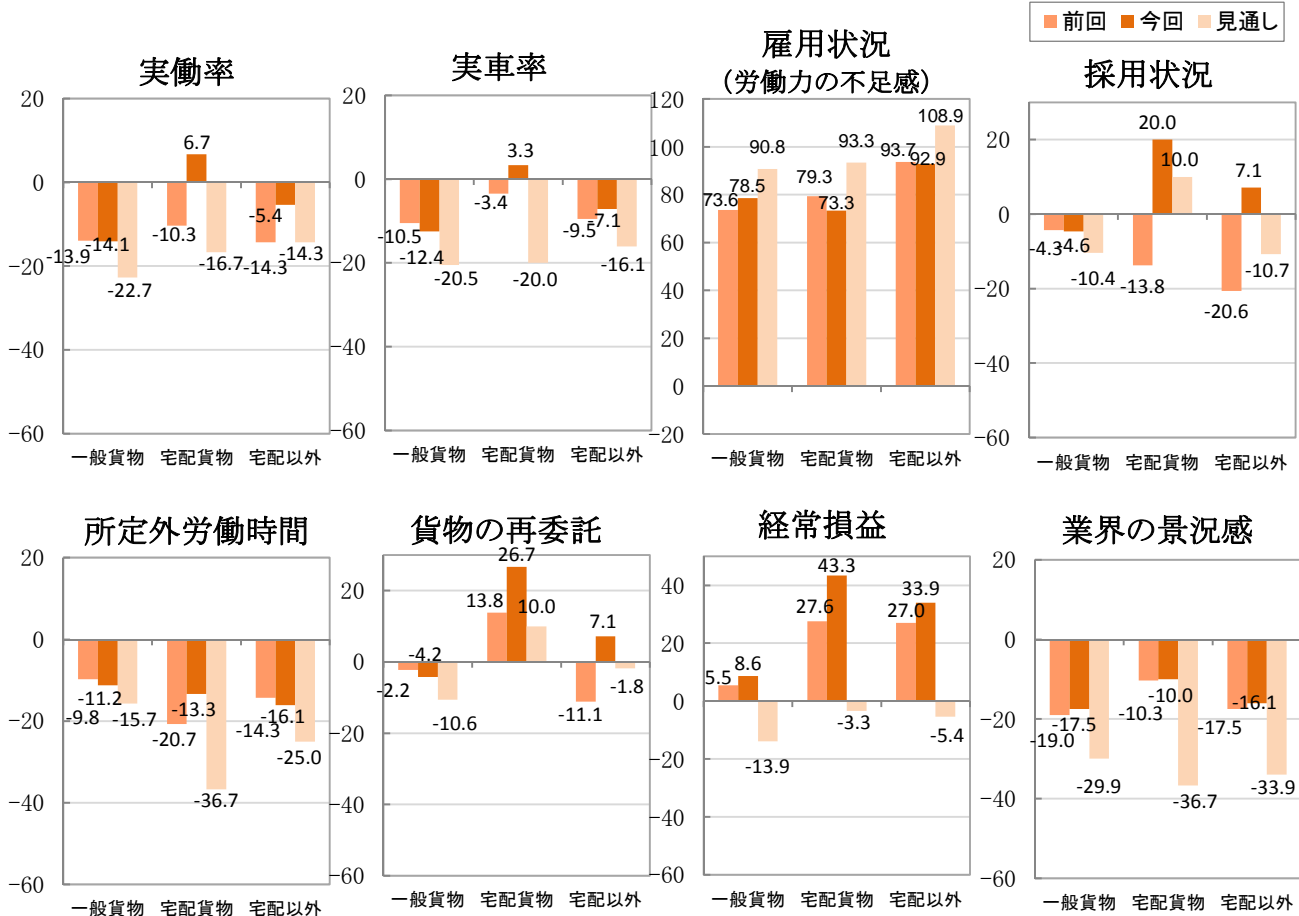
- ・一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、中部、中国、九州において水準を上げている。他方、関東、北陸信越、近畿、四国においては水準を下げています。
- ・今後は、水準を上げると回答している地域はなく、すべて水準が低下する見込みである。

地域別 業界の景況感に関する指標(一般貨物)



④ 事業形態別 (注8)

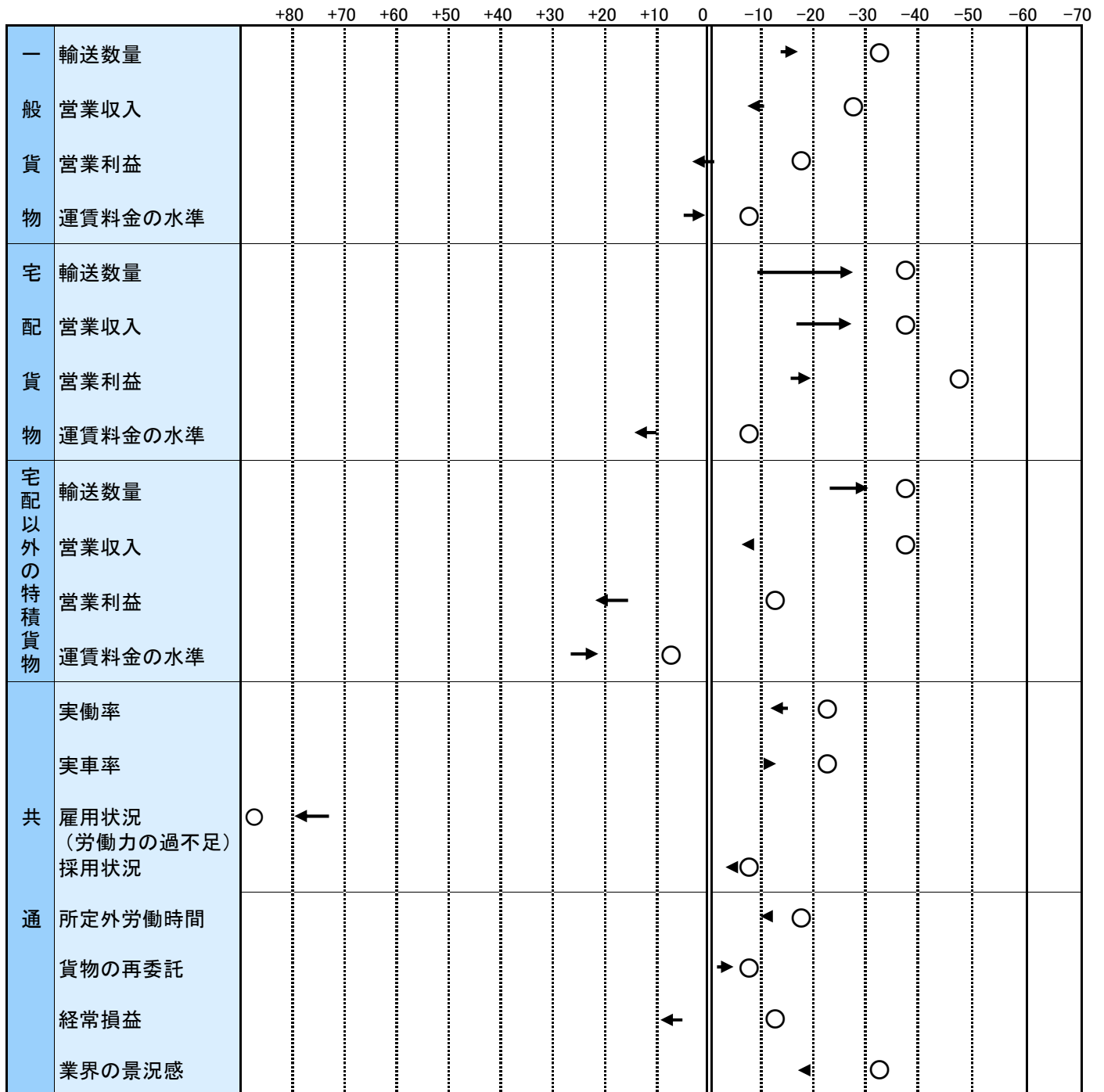
- ・事業形態別の景況感は、「一般貨物」においては僅かに水準を上げ、「宅配貨物」においてはほぼ横ばい、「宅配以外」においては僅かに水準を上げている。また変化が顕著であった項目として、実働率については、「宅配貨物」で水準を上げている。実車率については、「宅配貨物」では水準をやや上げている。雇用状況は、「宅配貨物」においては不足感が僅かに弱くなっている。経常損益は、「宅配貨物」「宅配以外」において水準を上げている。



(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「宅配貨物」「宅配以外の特積貨物」である。

7. 業況判断指標の前回調査（平成27年7月～9月期）からの変化

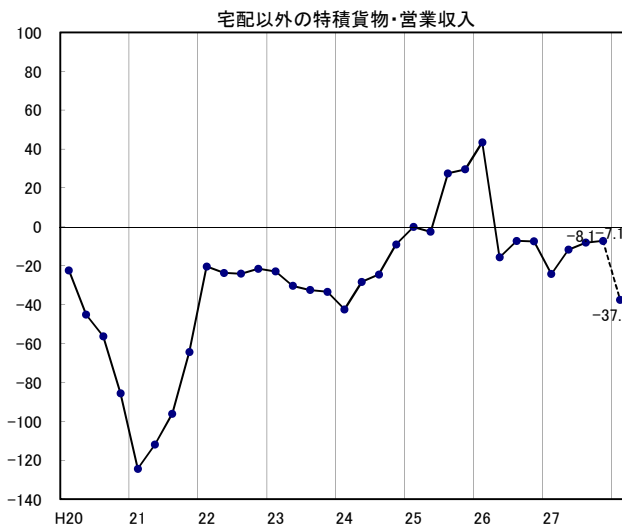
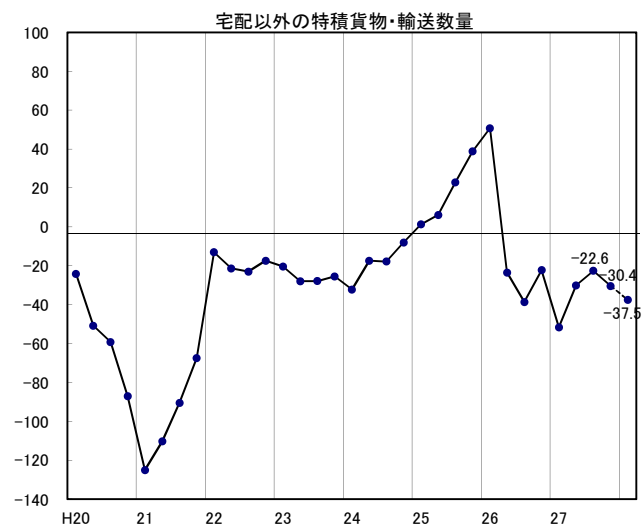
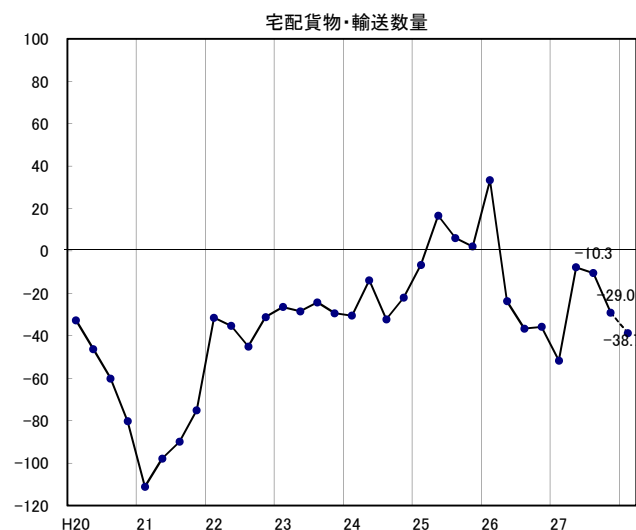
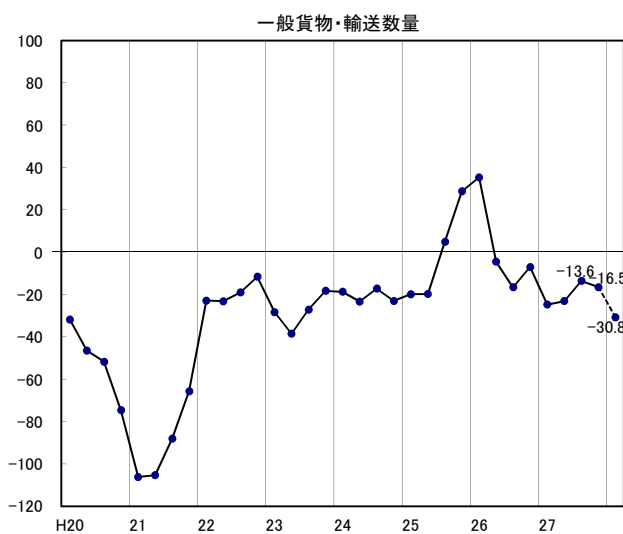


凡例

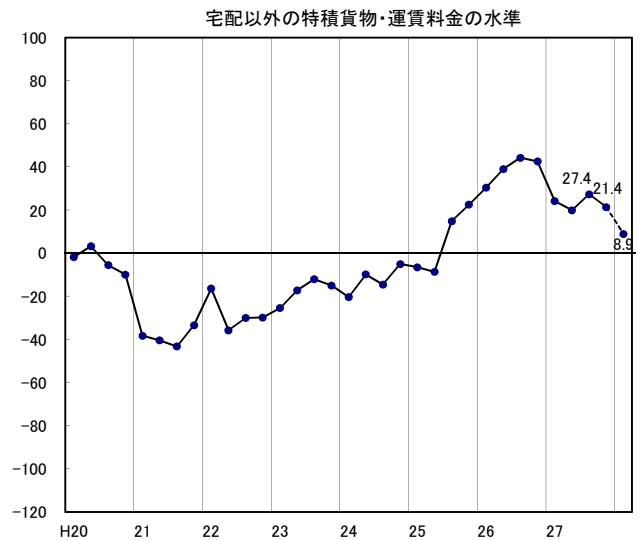
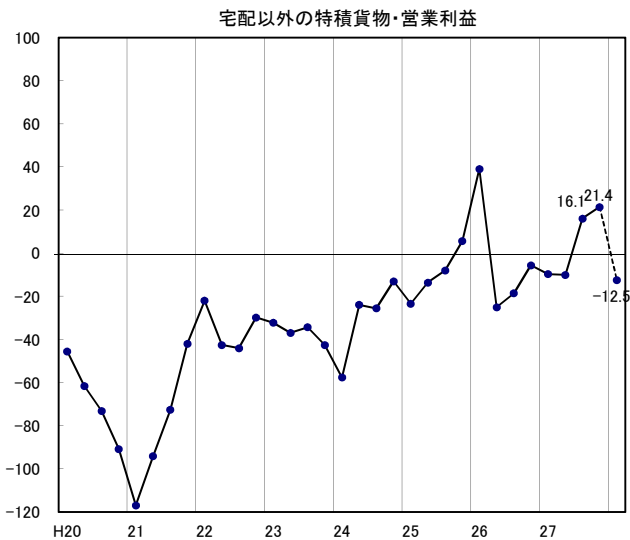
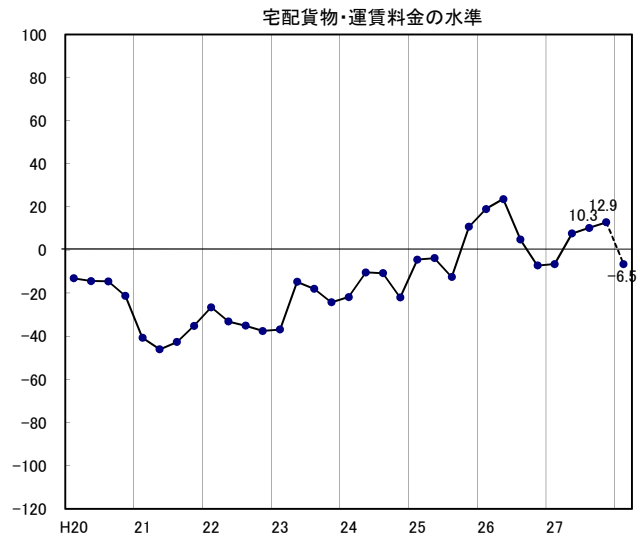
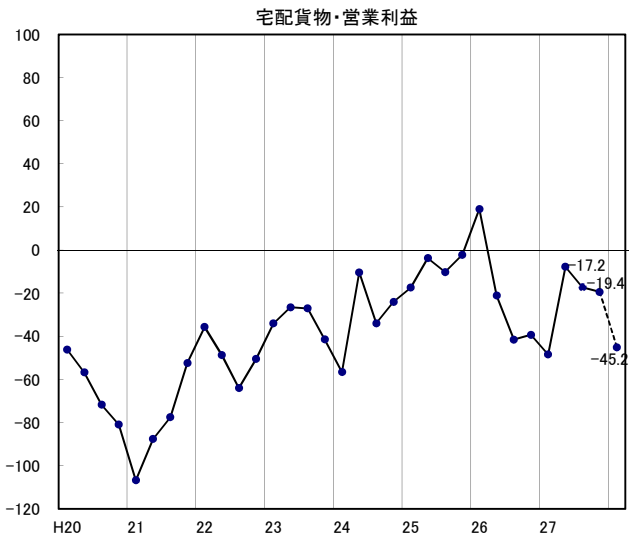
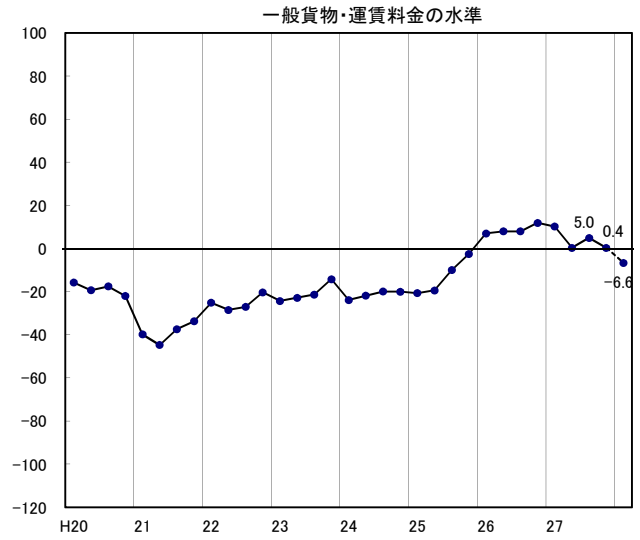
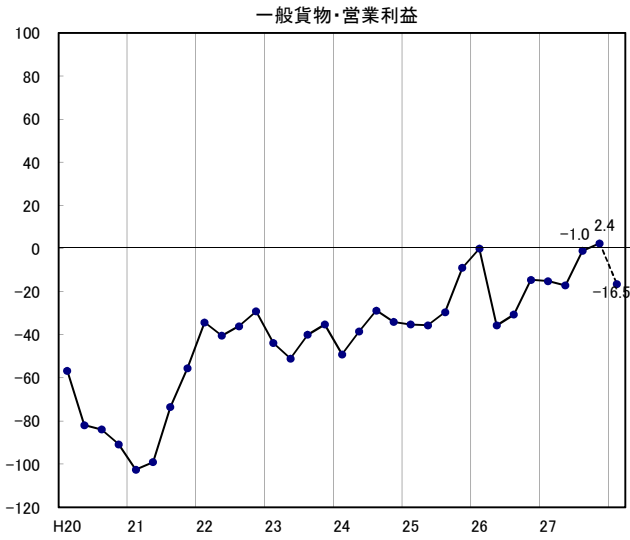
矢元 : 7-9月期の実績 矢先 : 10-12月期の実績	白丸 : 1-3月期の見通
----------------------------------	---------------

8. 業況判断指標の推移

平成20年～平成28年第1四半期見通し

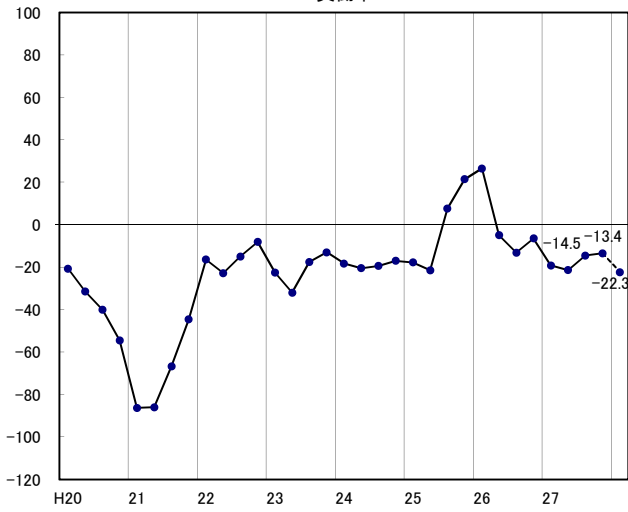


平成20年～平成28年第1四半期見通し

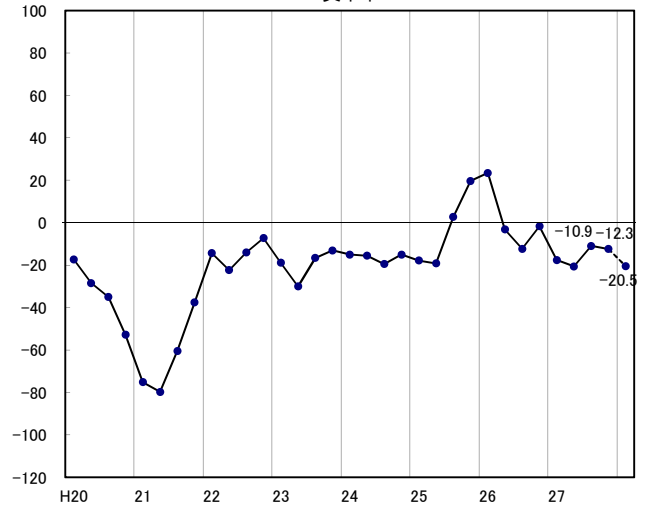


平成20年～平成28年第1四半期見通し

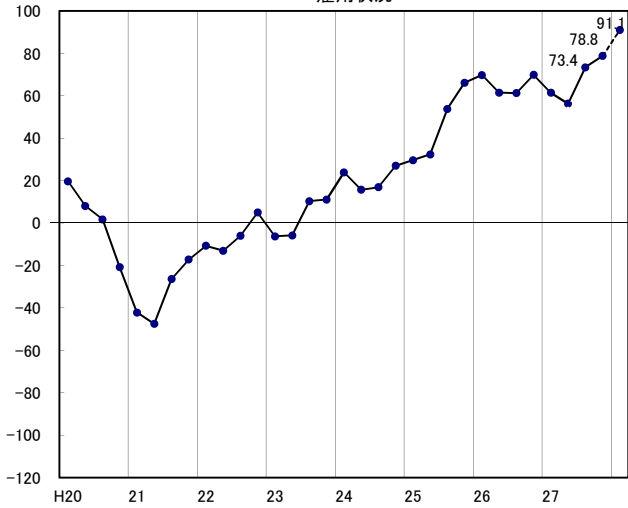
実働率



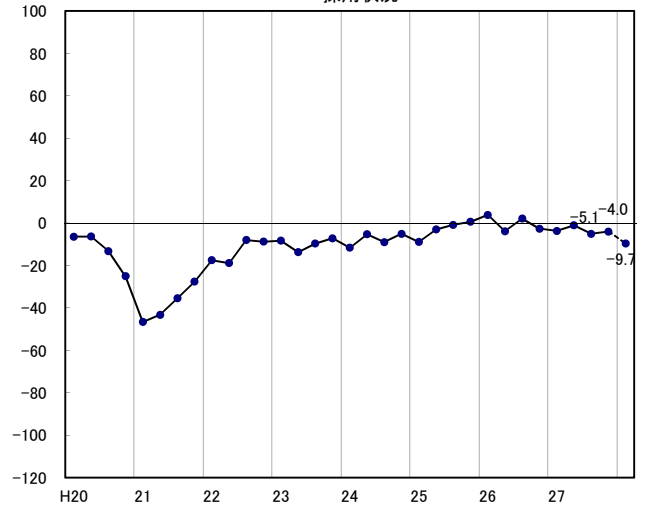
実車率



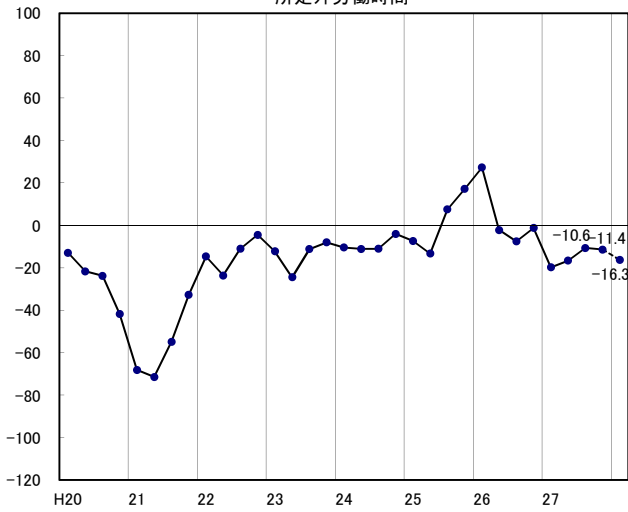
雇用状況



採用状況

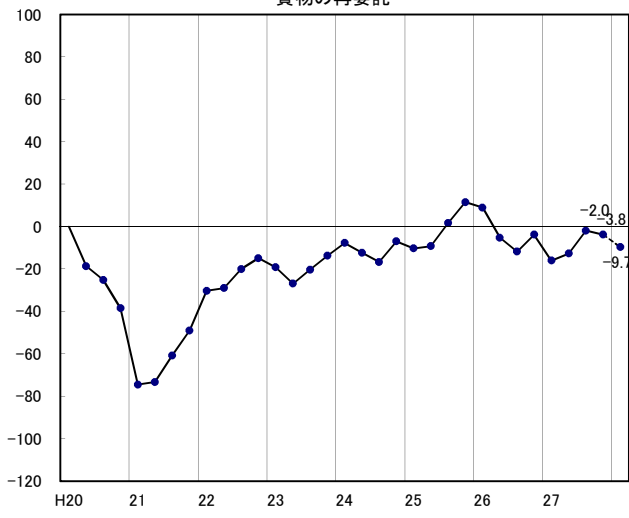


所定外労働時間

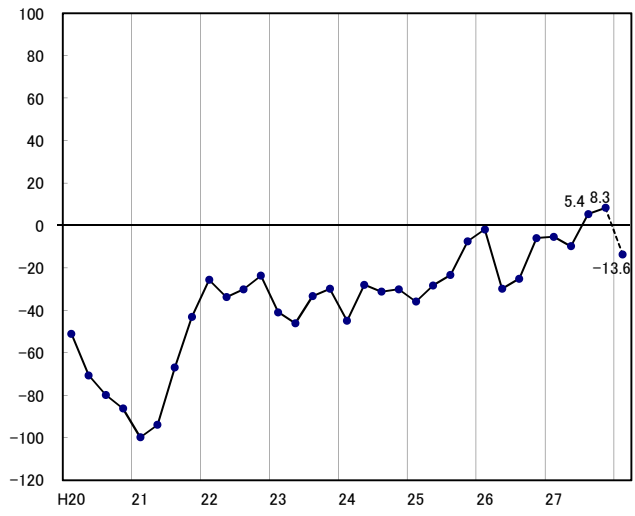


平成20年～平成28年第1四半期見通し

貨物の再委託



経常損益



業界の景況感

